



萩間小

入学式終了後、校長室で**第1回 学校運営協議会(4月7日(火))**が開催されました。

CS ディレクターの坪池芳子さんは、学校支援本部としての経験を生かし地域と学校をつなげていることはもちろん、少し厚い運営協議会の資料をすべて用意し、運営協議会全体の司会を堂々とつとめており、会議をよくまとめ、第1回とは思えない会議の進行でした。協議は、校長先生の方針の提案があり、委員のみなさんから承認されると、校長から提案された「学校のチャレンジ」に対して、「学校のチャレンジを応援するために地域が進めていくべきことは何か」というコミュニティスクールがめざす討議をはじめたので驚きました。また、学習支援活動に関しては、具体的に「どの学年のどの活動をさらにこうしていったら…」あるいは「先生が萩間川の生物の授業をしたいと言っている。」「だったら、〇〇に声をかけて、川をきれいにする活動をやらなくっちゃ。」というように、



具体的に地域の誰らがいつやるということがその話の中で決まり頼もしい限りでした。(転任してきた岩本教頭先生が、皆さんの発言内容がわからないようで、きょとんとしておりちょっと面白い風景でした。)また、萩間小学校では、地域のボランティアの方が集える場所を昇降口の一角を使って作りました。コミュニティルーム「ちょっくら」というそうです。学校が再開すると、今まで以上に、地域の方が学校に足を運びやすくなりそうです。



勝間田小

4月22日(水)に第1回 学校運営協議会が勝間田小多目的ホールで開催されました。CS ディレクターの鈴木一弘さんは、職員、子どもたちに「スズッキー」と呼ばれ、講師、補助員となって子どもの学習を支援したり、ある時はスズッキー旅行社を立ち上げ「学校参観のツアー」を計画したり、CS 新聞社となって勝小新聞を発行したり、そして本業であるお菓子づくりを生かして、勝小の校章をかたどったクッキーを卒業祝いに子どもたちにプレゼントしたりと、パワフルな活動で、子どもたちだけでなく、地域にも知られてきています。学校運営協議会は、学習支援サポーターで知られる大塚幸恵さん(大塚彰夫先生の奥さん)が会長になり、学校のことをよく理解している方が学校応援団のリーダーとなりました。協議会委員は、読み聞かせのリーダー、保護者、介護施設の経営者の方々に、この協議会も、メンバー誰もがアイデアを積極的に出しており、先生、保護者、地域という垣根をつくらず、子どもたちに、ふるさと勝間田で体験できることを積極的に体験させたいという思いを語り、さらには、読み聞かせは新たにやりたい人たちに入ってもらい、世代交代、後継者づくりまでしていけたらと広がりのある会合になりました。校長先生の思いである「地域とともにある学校づくり」がやれるんじゃないかと楽しみになった協議会でした。

また、勝間田小学校も、地域の方が集える居場所が、CS ディレクタースズッキーの手で積極的に作られてきています。(すごい実践力だなあ!!)



また、勝間田小学校も、地域の方が集える居場所が、CS ディレクタースズッキーの手で積極的に作られてきています。(すごい実践力だなあ!!)

相良中

4月21日(火)に第1回学校運営協議会が開催されました。CS ディレクターは、3月まで相良中に勤務し退職された吉永尚由先生。相良中に勤務していたので、職員にとってはとても信頼できる存在です。立場がかわっての勤務にやや緊張気味の様子でした。協議会に関しては、発言なく静かに進むかと思いきや、校長先生の防災への思いを語ると、バラエティーに富んだ運営協議会の委員から、「ぜひ地域と一緒に子どもたちを交えた自主防災の組織をつくろう」と

力強い意見が飛び交い、士気が高まる協議が行えました。会長となった今野英明さん(菅山にある光誠工業社長)は、今回の方針をつかった「望ましい教育環境のあり方検討会のメンバーであり、小中一貫教育、コミュニティスクールから、「ふるさと牧之原を愛する子どもたちを先生方と一緒に育てたい」という気持ちが強く、動き出したら止まらなくなりそうな勢いを感じました。防災というキーワードを共有し、一歩踏み出した相良中の運営協議会、楽しみです。相良中のコミュニティルーム(CS ディレクターの事務室を兼ねる)は、どこの空き教室を利用するか決まり、これから電話の設置が始まるようです。

